



第17回

ブルーメール賞

月刊神戸つ子

選考座談会〈音楽部門〉

青井彰に―― 叙情性豊かなピアーストの

★次回に期待したい中筋栄一

柴田 昨年に引き続いて、全般的に活発に活動をしている人が少ないとですね。これといった人がいない…。

出谷 前回も名前を出したんだけど、神戸コンサート協会の中筋栄一。地元において、単なるマネージメント業だけでなく、永年プロデュース活動を続けてきた功績をぼくは評価したい。

小石 „縁の下の力持ち“というタイプだね。そろそろ評価してあげたいという気はするが、今年は特に目立った活動というのをしていないな。賞の性格上該当者に当たるまらないのでは…。

★人材不足の声楽部門

柴田 大前哲（作曲）は？

小石 昨年は「現代の波」のみで、新しい作品は出していない。名古屋フィルの指揮者、岡田司は、名古屋フィルできびしいオーディションの中から選ばれた有望株ですよ。

出谷 彼はダークホース的で、ただ残念なのは大阪と名古屋中心の活動が多く、地元神戸では知名度が少ない。

小石 まあ指揮者っていうのは、声楽なんかと比べると息が長いからね。去年は神戸でオペラをふつて好評を受けたし、これからでもチャンスはある。

選考委員



出谷 啓
<音楽評論家>



小石 忠男
<音楽評論家>



柴田 仁
<音楽評論家>



’87年、1月に行われた田崎ホールで青井彰の演奏風景

★コンサートのた
びに成果をあげて
いる青井彰に
柴田 私は昨年一
月に行われた田崎

ホールでとても良い演奏をしました。彼はコンサートの度に上手くなっている。該当者としては、若すぎてしまふけれど、煙儀文（声楽）もいいものを持っている。

それに昨年ライオ

ンズクラブ音楽賞を受賞し、その記念リサイタルを開いた右近恭子（ピアノ）といったところかな。

た。彼はコンサートに短かに声楽というと小村亮

三ぐらいだが、昨年のリサイタルはもう一つだった。うまくはなつ

ては、生命が短かいよ。
出谷 惠子（ピアノ）、田中修二（ピアノ）あたりが若手で将来期待できる候補と言える。

出谷 鈴木雅明（オルガン）、坂本恵子（ピアノ）、田中修二（ピアノ）あたりが若手で将来期待できる候補と言える。

出谷 柴田、テレマン室内管弦楽団との協演で、フルートコンチェルトに意欲的な吉岡美恵子。それに前衛的なオペラグループ、アラ・ディ・コウベも挙げたい。

出谷 ほかに声楽というと小村亮

三ぐらいだが、昨年のリサイタルはもう一つだった。うまくはなつていて、声量がだんだんなくなつてきている感じ。日本の歌手

出谷 ほかに声楽というと小村亮

三ぐらいだが、昨年のリサイタルはもう一つだった。うまくはなつていて、声量がだんだんなくなつてきている感じ。日本の歌手

出谷 しかし、昨年何か新しく実績があつたかを考えると……難しいところだな。

出谷 こう挙げてみると“帯に短かにしたすきに長し”ですね。年齢的にも幅が広い。

出谷 柴田、ピアノの青井彰は昨年田崎ホールでとても良い演奏をしました。彼はコンサートに上手くなっている。

出谷 た。彼はコンサートに上手くなっている。該当者としては、若すぎてしまふけれど、煙儀文（声楽）もいいものを持っている。

出谷 それに昨年ライオ

ンズクラブ音楽賞を受賞し、その記念リサイタルを開いた右近恭子（ピアノ）といったところかな。

出谷 ほかに声楽というと小村亮

三ぐらいだが、昨年のリサイタルはもう一つだった。うまくはなつていて、声量がだんだんなくなつてきている感じ。日本の歌手

出谷 しかし、昨年何か新しく実績があつたかを考えると……難しいところだな。

出谷 こう挙げてみると“帯に短かにしたすきに長し”ですね。年齢的にも幅が広い。

出谷 柴田、ピアノの青井彰は昨年田崎ホールでとても良い演奏をしました。彼はコンサートに上手くなっている。

出谷 た。彼はコンサートに上手くなっている。該当者としては、若すぎてしまふけれど、煙儀文（声楽）もいいものを持っている。

出谷 それに昨年ライオ

●受賞者メモリアル

1. ピアノ/田原 富子
2. 合唱指導/矢野恵一郎
3. バレエ/上月 優子
4. バレエ/今岡 頌子
5. 音楽評論/小石 忠男
6. 作曲/中村 茂隆
7. ピアノ/関 晴子
8. 声楽/坂本 環
9. ピアノ/山内 鈴子
10. 声楽/松本 幸三
11. ピアノ/伊藤 ルミ
12. 声楽/井上 和世
13. プロデュース/末広 光夫
14. 声楽/安芸 武春
15. 指揮/延原 覚
16. 指揮/中西

柴田 そうですね。そういう意味でも神戸をはじめ地方はもつとアーティストの育成に力を注ぐべきだと思いますね。△文中敬称略

柴田 しかし、関西はまだ若い音楽家が少ない。どうしても学校、リサイタルの場が首都へ集中してしまうのが問題だろう。

柴田 そうですね。そういう意味でも神戸をはじめ地方はもつとアーティストの育成に力を注ぐべきだと思いますね。△文中敬称略

柴田 しかし、関西はまだ若い音楽家が少ない。どうしても学校、リサイタルの場が首都へ集中してしまうのが問題だろう。

柴田 しかし、関西はまだ若い音楽家が少ない。どうしても学校、リサイタルの場が首都へ集中してしまうのが問題だろう。

柴田 しかし、関西はまだ若い音楽家が少ない。どうしても学校、リサイタルの場が首都へ集中してしまうのが問題だろう。

第17回

ブルーメール賞

月刊神戸つ子

選考座談会へファッショニ部門へ



★一つの節目を感じさせた

昨年のファッショニ業界

小泉 神戸ファッショニフェアが15年で区切りをつけましたね。

荒津 K・F・Cは15年間よく頑張って来られましたね。

藤本 地場産業と連携して來たといふことは、評価すべきでしよう。

福富 西脇の播州織へのK・F・Cの働きかけは、大変意義のあるものでしたからね。

藤本 実験的にK・F・Cが仕掛け、大変注目を集めたのですから。

小泉 同時にファッショニデザイ

ンコンテストが開かれました。福富 若い人のアイデアはなかなかかよかつたですね。

小泉 藤本ハルミのショードは、昨年は2回開催されていますね。

藤本 東京プリンスホテルでのシヨーには、神戸の方が東京の方をたくさん紹介してくださり、外国の方も大勢来てくださいました

し、昼夜、思いがけず盛会で、やりがいがあったと思います。

大阪プラザホテルではフロアシヨーという形だったのですが、舞台との違いや、それの良さが

分かり、勉強になりました。

小泉 大里最世子が昨年も楽しいショードを見せてくされましたね。二ツの手編みサロンの市野木江充子が、生徒たちによるショードを開いたのはユニークだと思います。

藤井美智子は昨年、シルク地、浴衣の洋服のショードを開いています。

荒津 但馬ちりめんにも注目をして、洋服を作る研究をしています。同様に、中島正義は紳士服の仕立てを試みています。

小泉 K・F・Aの発案で「ファッショニショード」に替わって「ファッショニパーティ」が開かれましたが、盛況で、若い世代はおしゃれですね。ただ、私は、市民とK

・F・Aとの接点がなくなつたんじゃないかと残念な気がします。

藤本 私は、社交の場の少ない日本で、あのようなパーティはいいと思う。けれども「ファッショニ」と名付けるならば、ジャヴァア

地元と組んだ15年の歩みに
K.F.C. 〈神戸ファッショニ部門〉
クリエーターズ



西脇のコットンを使ったショー風景

●受賞者メモリアル

1. 服飾デザイナー／藤本ハルミ
2. 神戸市心身障害福祉センター／米田 博司
3. ニットデザイナー／市野木江充子
4. コウベジュニアテラーズクラブ／KLTC
5. アートフラワー／太田 タマコ
6. コウベファッショソサエティ／K.F.S.
7. パール／「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 家具／神戸市家具青年部会
9. コウベファッショソモディリスト／K.F.M.
10. 書道家／望月美佐

グループの今年はこれ、ワールドはこんな服というように若い人がファッショを競わない。メー カーが社員に着せるんですよ。会 社のパーティになつていいと思 う。それを感じたのは、男の子の お洒落。それに比べて女の子はよ くなかった。"ファッショ"と名 が付いているんだし、一線越えた お洒落をして欲しかった。

荒津 第一回でしたから、"迷い" もあったのでは。私自身、今度は 蝶ネクタイにしよう"と思いまし たから。そういう意味では意義が あつたんじやないでしょうか。

★51年の歩みを評価して

K・F・Cに

小泉 ファッショントウンの社屋 は、どこも素晴らしい外国へ行つ たようですね、川上勉のオールス タイプ"モードビア"は新谷秀紀

さんの10体の彫刻がシンボリック で建築環境賞は嬉しいですね。又、 建築文化賞をユーハイム、アバン、 大月真珠が受賞しています。

荒津 そういう場所でファッショ ンショーをする工夫ができないで しょうか。やつてほしいですね。 小泉 例えば、スポーツ課がある のですから、神戸市に"ファッショ ン課"を設けて、ショーも何らかの形で続けて欲しいですね。では、今年の賞ですが、市のファッ ション都市宣言から15年間、続け 活動して来たK・F・Cに贈る ということいかがでしよう。

荒津 私もそれがいいと思います 藤本 地元に注目し、継続して仕 事をするのは大変なことです。 福富 今後の活躍にも期待したい と思います。

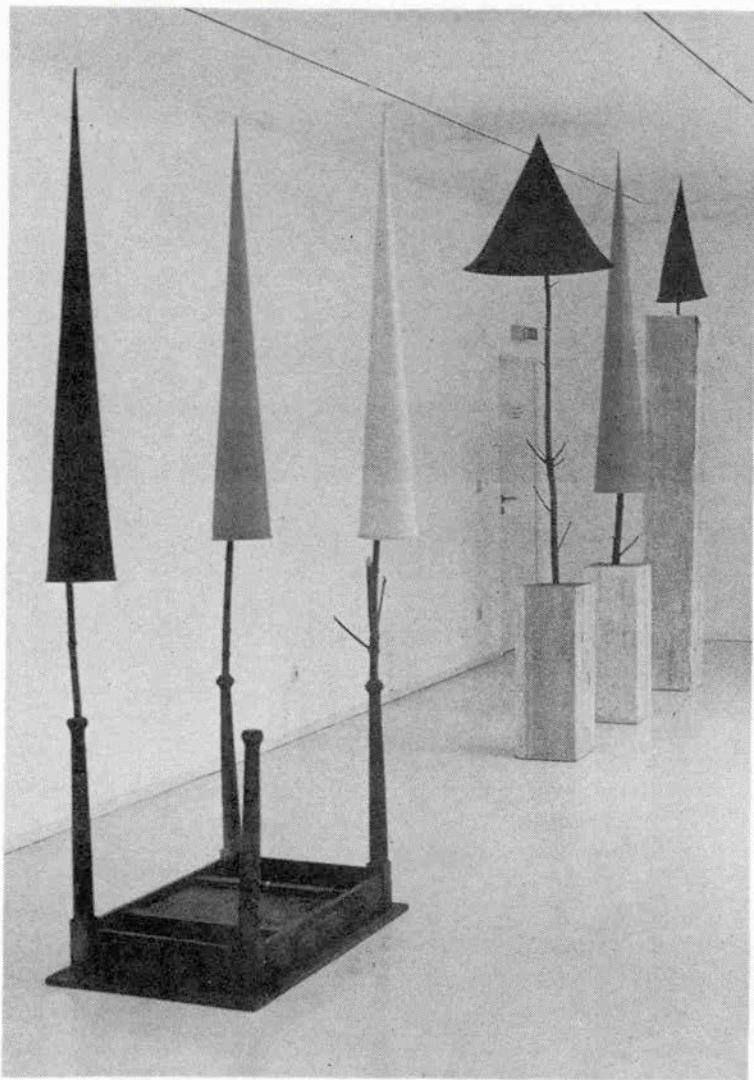
△敬称略▽

選考委員



躍進をつづける明日の神戸を創る

ハイカラ神戸の伝統に
オリジナルな創意を加えて
21世紀の神戸の発展をめざします――。



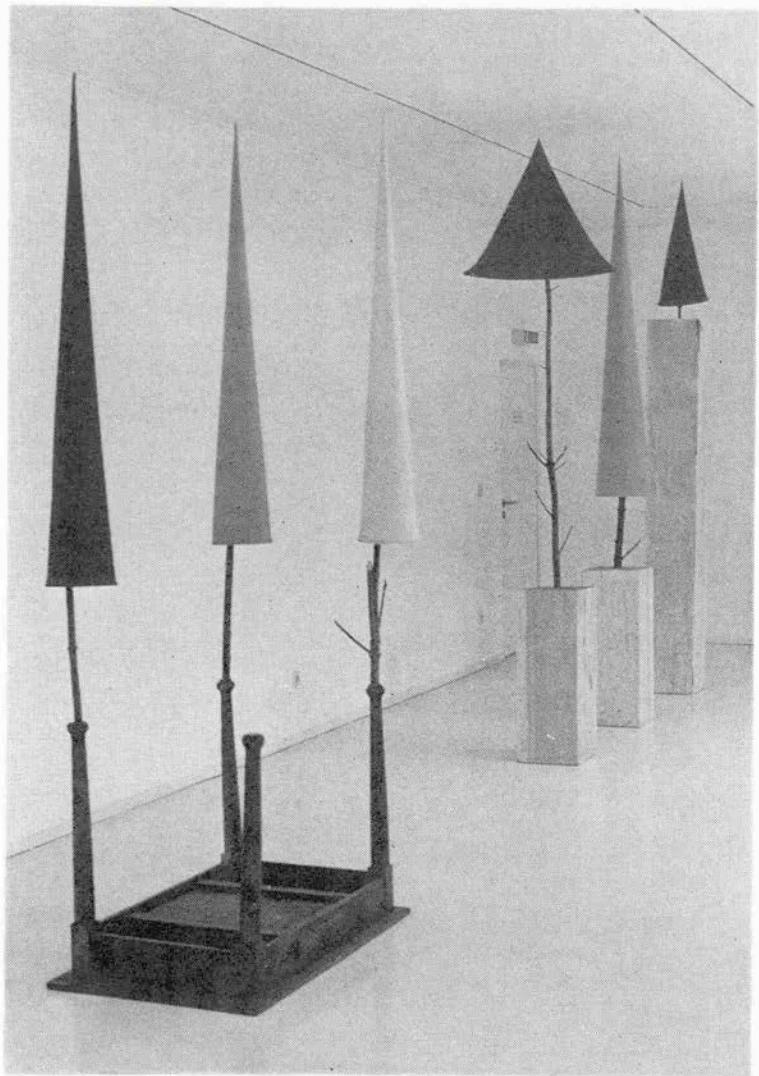
作品／植松奎二

●祝・月刊神戸っ子創刊27周年

<p>自民党兵庫県連会長</p> <p>衆議院議員 砂 田 重 民</p> <p>神戸中央区下山手通二一—三一三 林第一ビル4階 電話(078)三二一—三三三二</p> <p>自民党副幹事長</p> <p>衆議院議員 石 井 一</p> <p>神戸市中央区北長狭通一—一十二 電話(078)三三一—九〇一七 九〇一八</p>
<p>株式会社ラジオ関西</p> <p>取締役社長 山 崎 進</p> <p>神戸市須磨区行幸町一—一六 電話(078)七三一—四三三二</p> <p>株式会社 ホテルオークラ神戸</p> <p>会社 木下真珠</p> <p>神戸市中央区波止場町四八番地 メリケンパーク 電話(078)三三三一〇一二</p> <p>株式会社 木下真珠</p> <p>代表取締役 木下 章夫</p> <p>神戸市中央区山本通一—七一七 電話(078)二三二一〇四八七</p> <p>株式会社 木下真珠</p> <p>代表取締役 木下 章夫</p> <p>神戸市中央区山本通一—七一七 電話(078)二三二一〇四八七</p>
<p>樽本産業株式会社</p> <p>代表取締役 樽 本 久</p> <p>神戸市中央区相生町四一三一 神戸ストーカビル四〇四号 電話(078)三七一—〇六六一</p> <p>光印刷株式会社</p> <p>取締役社長 南 部 圭 三</p> <p>神戸市中央区下山手通二一—六一—二 電話(078)三三二一—五五一四</p>
<p>樽本産業株式会社</p> <p>代表取締役 樽 本 久</p> <p>神戸市中央区相生町四一三一 神戸ストーカビル四〇四号 電話(078)三七一—〇六六一</p> <p>横山倉庫株式会社</p> <p>取締役社長 横 山 吉 雄</p> <p>神戸市中央区磯上通八一—一五 電話(078)二三二一—五三二一</p>
<p>横山倉庫株式会社</p> <p>取締役社長 横 山 吉 雄</p> <p>神戸市中央区磯上通八一—一五 電話(078)二三二一—五三二一</p> <p>ナシヨナル</p> <p>(有)クレセント・インター</p> <p>ナシヨナル</p> <p>代表取締役 王 柏 林</p> <p>神戸市中央区布引町一—一三一 電話(078)二三二一—〇七三一四</p> <p>財団法人 井植記念会</p> <p>理事長 井 植 貞 雄</p> <p>神戸市垂水区青山台一—二一 電話(078)七五一—五二二六七七</p>

躍進をつづける明日の神戸を創る

先取の気性に富む先人たちの
伝統を今日に受け継ぎ
21世紀の神戸の発展をめざします――。



作品／植松奎二

● 祝・月刊神戸っ子創刊27周年

エム・シーシー食品株式会社

代表取締役社長 水垣宏隆

神戸おさかな普及協会

代表理事 田中辰夫

ユーローハー株式会社

ウエシマ

神戸市兵庫区中之島一一一
神戸水産物卸協同組合内

神戸市中央区三宮町一四一九
電話(078)332-13971

神戸市東灘区深江浜町32番
電話(078)451-1481(代)

株式会社ユーハイム

取締役社長 河本武

株式会社神戸ニュータウン

代表取締役社長 宮岡寿雄

キリンビール株式会社

支社長 直木純

神戸支社

株式会社ユーハイム

代表取締役社長 河本武

キリンビール株式会社

支社長 直木純

株式会社 神明

代表取締役 藤尾豊

今西建設株式会社

代表取締役 今西恭晟

日用品雑貨卸商社

代表取締役 友藤順義

株式会社 神明

代表取締役 藤尾豊

日用品雑貨卸商社

代表取締役 友藤順義

健康充電基地VIVI有馬

代表取締役 中内博

プロメテウス株式会社

代表取締役 所司原義久

未生流玉光

代表取締役 家元谷村晃甫

兵庫県技術士会

会長坂田元記

東神物産株式会社

取締役社長 富永幹太

ナニワ印刷株式会社

代表取締役 西井雄三

神戸市長田区菅原通一一六
電話(078)576-13556

神戸市北区有馬町石倉四〇六一三
電話(078)900-10017

大阪市東淀川区菅原二二〇二二八
電話(06)332-16161

大阪市北区天満一九一九
電話(06)355-17272

新栄開発株式会社
神戸市中央区海岸通六一一一
電話(078)371-12232

神戸市北区有馬町石倉四〇六一三
電話(078)900-10017

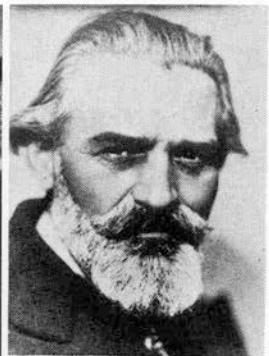
神戸中央区北長狭通三一一一
電話(078)321-1000

神戸市須磨区中落合一一二一
電話(078)791-17100
FAX(078)791-17730

尼崎市南塚口町一一七二二三
電話(06)429-15150
大阪市東区北浜五一一一
電話(06)232-13344

神戸市須磨区弥栄台一一四五
電話(078)791-12000
FAX(078)791-15555

日仏藝術交流の華
アンジュ・トマージ
ANGE TOMASI写真展
ナポレオンの生誕地コルシカが生んだ、戦前のヨーロッパ写真界の第一人者



(上)アンジュ・トマージ
(1883~1950、コルシカ島コルト市に生る、現、仏文化・通信大臣の祖父にあたる)第1次世界大戦より写真を学び、以後コルシカ島民の生き様を撮り続けた。彼の作品の記念切手は今も蒐集家達に根強い人気がある。日本での作品展は今回の神戸を皮切りに、東京・京都で行なわれた。



(上)2月3日、オープニングのもの
角卓氏、A・レオタール
夫人、J・ルリエール上院議員。
(写真左より)

(左)作品「ジャクシオの漁夫」

(右)オープニング後、会場でのA
・レオタール夫人。



英雄ナポレオン・ヴァオナ・バルトを生んだ小さな島、コルシカ島。半世紀前のこの島の人々の生き様を克明に撮り続けた写真家、アンジュ・トマージの写真展が2月3日から8日まで、そこそこ神戸店にて開かれた。記録というよりは、むしろ「芸術」。絵画的な美しさと不思議な立體空間の創造性を秘めたモノクロームの世界を、期間中、多くの人が訪れ体験した。



山本 副社長



角 卓氏



A. レオタール夫人

■父アンジュ・トマージを語る

写真展開催にあたり来日した令嬢アントワネット・レオタール・トマージ夫人(仮レオタール文)を訪ね、写真展実行委員会の中心である画家、角卓氏(甲南女子大学教授)、丹下建三建築設計事務所の山本副社長にも同席いただいて懇談の場を持つことができた。

ニースに始まり、今回でもう10回を超すアンジュ・トマージ写真展のそもそも提案者は、彼の孫でありマダムの令息でもあるレオタール文化・通信大臣であるらしい。現在コルテの宮殿に保存されている約4万点の中から展覧会のたびに選ぶのだそうだ。また、一九八九年には新たな写真集を発行する予定もある。「現在では見られなくなった島民の風習や風俗といった“生活”あるいは、宗教的行事。この2点に重点を置いて企画中です」と話してくれた。当時は、フランスや露出計もなかつた時代であり「車で父と兄と連れだって出かけ、周囲の自然条件が整うまで待つのが子供の私には苦痛だった」と思い出も。「娘に厳しい父」であったそうだが、「写真展覧会に飾られた父自身の写真(前頁)の、何か他のものを見つめているような眼差しが好きです」と言ひきつたマダムの誇らしげな笑顔が印象的だった。

■パリ、そして神戸…

昨年、6月から約3カ月間、フランスの美術学校「エコール・ド・ボザール」で「丹下建三40年の建築と都市計画の歩み」という展示会が催された。この時の後援がレオタール現文化・通信大臣であった。

変容するパリ。21世紀の都市を目指して“大統領のグランド・プロジェクト”が次々と進められるなかで、丹下建三事務所が手掛けているのは、パリの東部に位置するイタリー広場の文化センターである。実際のパリでの任務にあたる山本副社長は、フランスの国際性について

て次のように語ってくれた。
「プロジェクトに關係しているのは、殆んどがフランス人以外の外国人です。人種に關係なく優秀な頭脳を投入しようとする姿勢、そして様々な藝術のジャンルが自由に出たり入りたりできる点。そういったものを自然に受け入れられるキャパシティに魅力を感じます。また、機能性以外に隣との關係、つまり都市計画の調和性です。」

共通の広場を創ることが都市設計の基本にあり常識化しています。きれいな街をつくろうという市民の自覚があるんですよ」

そして、神戸については「新しい文化を築いていくバイタリティと古い良いものを持った、個性のあるいい街。今回の写真展も東京・京都に先駆けて、まず神戸で開催することに意義がありますね」と。

■オープニング／日仏芸術文化交流へ／

2月3日、オープニングである。まず主催者の角卓氏から、「'86アンチーヴでの角氏の個展がこの写真展に導いたこと、そして「イデオロギーを超えたところに全てを理解することができる、それが文化・藝術である」と、

芸術文化交流の大切さが語られた。

続いてマダム・A・レオタールより御礼の言葉とジャック・ルリエール上院議員からも相次いであいさつが。ヨーロッパアカデミーを代表、出席されルリエール議員からは角氏に勲章が授けられ同時にアカデミー会員に推举された。

ヨーロッパアカデミーとは、マダム・ダガージョにより一九七九年に設立された研究機関であり、現在は5つの大陸、50カ国にまたがって活動がなされている。数多くの、ノーベル賞を有する諸氏が所属していることからも、そのレベルの高さが窺える。

やがてテープカットを終え、父の撮った一枚一枚を静かに見つめるマダム・A・レオタール。コルシカ島から一万キロ以上も隔てた異国で父の作品に新たな何かを発見しただろうか。

独立を克ち取ろうとする政治混乱の中で、コルシカ島を離れようとする人々が多いと聞くが、トマージの残した「美しい島」が決して失われることがないよう遙か神戸の街から祈りを捧げたい。



生田神社にて豆まきの行事に参加



生田神社会館で行なわれた「日仏文化交流のつどい」
壇上は貝原兵庫県知事



豆まき姿のA. レオタール夫人をかこんで

経済ポケット ジャーナル



★ 東急ハンズが
三宮にオープン

手作りの店として親しまれている東急ハンズが3月18日に生田神社南側にオープンする。オープンセレモニーでは未公開だが、あつと驚くようなイベントを用意しているとの事。

店内は各フロアとも「スキンシップフロア」と名づけられた三段階に段差をつけた構造で、また1Fにはイベントホールを設けるなど、空間をふんだんに使って、商品面では輸入物に力を入れ、他店に比べ約2倍の品揃えをしている。また、

お目見え。

建築家安井忠生氏の設計によるタウンの新しい顔として㈱ジエルベの新本社ビルが初



オリジナリティ性を重視していく方針から、販売員各自が自ら仕入れを行うという形態や、発想段階で今までと違ったものに力を入れてゆく。



設立以来17年、新たなる発展が期待できる。

今回は'89年フェスティック

■ 中央区港島中町6-3-1
電 303-11011

■ 神戸市経済局商業貿易課
電 331-5143



■ 第3回「ザ・和食」開催

このところ注目を集めている日本型食生活の優秀さを、さらにPRするため、関係団体が協力して、3月20日(日)午前10時~午後3時、メリケンパーク内フイッシュダンスホールにおいて、バラエティに富んだイベントを開催する。



■ 神戸観光汽船
電 331-0785

■ 双胴高速クルーザー就航
淡路フェリーボート株建
造の豪華クルーザーを神戸
観光汽船がチャーターし、7月
から運営する。船内は一流
シティホ

テル感覚の設備が整ってい
て、とて
も豪華な旅が楽しめる。



★ KOBEオフィスレディ★

高木ゆかりさん (24)

かわいい人がいるもんだ。チラと見上げる目線がいい。ほんの少しの恥じらいも、人の心を和ませる。

「スーパー ドライ」が好調で、仕事が忙しくって…と笑う彼女。立教大学の英米文学を卒業し、60年に入社した。学生時代には旅行研究会にも入っていて、ドライブするのが趣味だという。

「お酒はつきあい程度です……」はてさて、これは真実か？
垂水区在住、水瓶座のA型

（業種アサヒビル）

音楽で、神戸を心暖まる エンターテイメントシティに

■座談会出席者（敬称略・五十音順）

安芸 栄子△声楽家△

伊藤 ルミ△ピアニスト△

井上 和世△声楽家△

北浦 洋子△ヴァイオリニスト△

中西 覚△作曲家△

延原 武春△指揮者△

松本 幸三△声楽家△

「多国籍文化都市」神戸はまさに芸術の増場である。

先月号で特集した美術のみならず、音楽においても然り。多くの音楽家が神戸を好んで在住していることもあってか、さまざまな国の、さまざまなジャンルの音楽が街の中で鳴り響き、日本でも屈指の音楽都市としてそのシーンは活況を呈している。

今回のキャンペーン座談会は、その中でも特にクラシック界で活躍されている皆様方にお集まり頂き、それぞの活動の状況や、最近のクラシック界の動向などについておうかがいしました。

音楽は何よりもエンターテイメントであるべきです

—— 今回は創刊27周年記念号ということもあり、この「国際文化都市神戸を考える」というキャンペーンでも



伊藤 ルミ さん



安芸 栄子 さん



松本 奉三さん



延原 武春さん



中西 覚さん



北浦 洋子さん



井上 和世さん

もう一度文化の原点を考えようということで、神戸の芸術界の特集をしたいと思います。前回は美術家の方々に集つて頂きましたが、今回はその「パート2」ということで、神戸のクラシック音楽のお話しをおうかがいしたいと思います。最初にみなさんの活動の状況をお話し下さい。

延原 大阪では先日大阪クラブの200回目のマンスリーコンサートがありました。神戸では「風見鶏のコンサート」ですね。神戸に来てもう13年目になりますが、大阪と違うのはやはり外国人の人が身近に住んでいて、国際都市を感じることですね。

北浦 昨年は神戸がロッテルダムと姉妹都市になつてちょうど20周年ということで、向こうへ招かれて演奏会をしました。向こうの人は演奏が終わると、日本のように花束じやなくて、バラの花を一輪持つて来てくれるんです。それがかえつて心暖まる思いで嬉しかったですね。

伊藤 今まで神戸と大阪を中心に20年間演奏してきて、東京でやつたことはなかつたんです。それが昨年チエコのヤナチエクカルテットが来日した時に、初めて東京文化会館で共演させてもらいました。ピアノも音響も素晴らしいで、実に楽しかったですね。ところがその一週間前に同じくチエコのターリッヒカルテットと神戸文化中ホールで演奏したんですが、あそこのピアノは老朽化してガタガタ。あれは絶対に買い替えるべきですよ。

井上 私はその東京文化会館の小ホールで、2月27日にリサイタルをするんです。東京では過去3回演奏してるんですが、結婚してから6年間東京でやっていないので、行つたら拒絶されるんじやないかというちょっと怖い気もしているんです。

松本 昨年は学校を辞めて時間があつたこともあつて、東京、大阪、神戸の3カ所で歌いました。まず東京では「バリオホール」という音楽専用のホールで歌つたんですが、ここは素晴しかつたですね。神戸では市立博物館でやりました。音楽専用ホールではありませんが、なかなかムードはありましたよ。それから大阪の厚生年金会館で

です。僕の場合、神戸のムードに慣れてしまっているせいか、大阪などでやると勉強の発表の場という感じになつて、ちょっとしんどいですね。やはり神戸でやるのが一番楽しい。

中西 昨年は2つの大きな仕事をしました。まず夏に西宮で「紋左衛門物語」という民話をもとにしたオペラの上演。それから秋には神戸文化ホールでオーケストラ用の曲の発表会をやりました。また今年の予定としては、10月30日に西宮のアミティホールで開催される兵庫県国民文化祭の合唱部門の中でオペラをやること。6月12日は作曲家グループの「たにしの会」で童謡のミニコンサートの開催。また12月には作品の発表会もやります。

安芸 去年は、まず6月には「魔弾の射手」に出演。8月は九州の霧島国際音楽祭で「タ・タ・ボエーム」。

12月には神戸文化中ホールでオペラの「信太妻」をやつたんですが、この時はホールにオーケストラピットがなくてびっくりしましたね。また今年の予定は、6月の「カルメン」出演と、7月の神戸市立博物館でのリサイタルが決まっています。またそれに先立つて3、4月に学校の休みをねらつてスペインへ歌曲の勉強を行こうとも思つているんです。もちろんそれを盛り込んだリサイタルも11月に計画しています。

さつきも話に出ましたが、神戸のお客さんは本当に暖かいですね。市立博物館のリサイタルでは、ぜひお客様に語りかけるように歌いたいですね。

延原 昨年はすごく旅行が多かつたですね。まずロンドンのクイーンエリザベスホールで、それからベルリン市制75周年のイベントに参加したり、その周辺の地域を回わつたり。またヨーロッパから帰つてからは韓国ソウルの「インターナショナルフェスティバル」にも参加しました。実はこのフェスティバルに日本の団体が参加するのは初めてなんです。今回は我々の他にアメリカやフランスなども来ていましたが、実にいい感じのコミュニケーションができましたね。演奏会の最後には会場の

みんなで韓国民謡の大合唱をしたんですが、向こうの人達は一般のお客さんでも実に歌がうまい。韓国は歌のレベルが高いですよ。まあ、最高の親善になりましたね。

その時も思つたんですが、やはりお客様を楽しむ舞台でなきやだめだと思う。日本の場合、ただ音楽学校で勉強したことを発表するだけという感じでしょ。エントリーテイメントがないんですよ。ヨーロッパの音楽家にはそれがある。日本の音楽教育は、楽しんだり楽しむせたりすることを教えないでしょ、だから「音楽が好きで入学して、嫌いになつて卒業する」ということになる(笑)。その点、松本さんのステージには彼の生きざまからにじみ出たエンターテイメントがある。だからファンがつくんですよ。

松本 僕もここでは評価していただいてますが、声楽の専門家諸氏にはあまり評価されていないんです(笑)。でもそれでいいんですよ。

ステージをやる上で大切なのは、演奏家とお客様との接点を作つていくこと。つまり、一般の人にも演奏家になつてもらうことです。そのためには「熟女塾」をやつてゐるんですが、参加者に聞いてみると、案外日本のカラオケよりイタリアの古典の方が歌いやすいというわけです。それで一度歌つてみると、今度それを聞いた時に歌う以前と全然違つて聞こえるという。結局それが演奏に参加するということであり、クラシックに入つていくための一歩の近道なんですね。

——さつきのバラ一輪の話などを聞くと、ヨーロッパでは聞き手にもエンターテイメントがあるという感じがしますね。

北浦 向こうの子供は遊びでクラシックを演奏してますよ。だから小さい時から生活の一部になつてゐるんですよ。だから小さい時から生活の一部になつてゐるんで

子供と言えば、この5月にファミリアが「こうのとりコンサート」という胎教コンサートをやるんです。私も参加するんですけど。

延原 ヨーロッパのお客さんはみんな大人ですよ。演奏家を乗せるのが実にうまい。昔は日本でも歌舞伎の観衆などはうまかったですが今はダメですね。それに向こうの人はあまり批評をしないでしょ。面白くなきゃ帰るだけですよ(笑)。

中西 そう、そもそも演奏会に行く動機が「楽しみたい」からですかね。

延原 そういう意味で東京の観客は世界で最も厳しい批評家だと言われている。それに向こうの人はテレビで見るのがあまり好みない。行くのが楽しいんですね。

充実した音楽ホールと情報センターのネットワークを

伊藤 実は、昨年共演したヤナチエクから「チエコでやらぬか」という手紙が來たんです。最初は驚きましたよ。なにしろヤナチエクと言えば世界の五指に入るカルテットですからね。でも向こうの人はファーリングさえ合えば、私のような無名のピアニストでも声をかけてくれるんです。そういう面では実にフリーですね。それまで持っていた向こうの人に対する固いカラが破れたような思いがしました。

延原 東洋と西洋では違つてあたり前という気もします。向こうの演奏家はそれで食べている人が多いから、舞台に上つてするのが自然なんですね。でも日本は違う。日本の場合、文化は民間でやつ下さい、という姿勢があるから、まだまだそれで生活している人は少ないんです。そういう意味では日本の状況は特殊ですよ。

—— 文楽など一部国が保護している文化もありますが、それはそれで弊害が出ていますしね。

松本 中西先生は学校の校長をしながら作曲の仕事をなさっているわけですが、いかがですか。

中西 実はもとヒマかと思つてたんですが、とんでもないですね。作曲には雰囲気作りが大切ですが、校長室じやねえ(笑)。

安芸 同じ声楽仲間で結婚している人がいるんですが、

彼女のご主人が優しい人で、「君の練習のために毎日夜7時から9時まで、テレビも何もかも止めて静かにしてあげる」って言うわけです。一見理解しているようだけど、実は全然本質がわからっていないんですね。毎日同じ時間が空いていても練習なんてできるものじゃない。結局一般の人の理解なんてその程度なんですね。

延原 日本ほど音楽学校出身者の多い国も珍しいのにそういう理解はまだまだですね。

安芸 日本の音楽学校は卒業したらそれで終わりでしょると思いませんか。コンサートにしても大阪の方が多い。

中西 卒業後も音楽を続けてたら、「まだやつてんの?」なんて言われる(笑)。

延原 ところで神戸は音楽よりも美術の方が先行していると思います。外人タレントのコンサートだって大阪ではやるが神戸は避けるでしょう。

伊藤 ホールの問題もあると思います。大阪のシンフォニーホールなんか行くだけでも楽しいですが、神戸にはそういう何かを期待させる音楽ホールがないからです。

中西 最近は作曲家の個展のようなコンサートがよく開かれてますね。ルナホールやベガホールなどが利用されているようですが、そういう適当な大きさのホールが神戸にはないですね。

松本 東京には座席数を変えられるホールがあります。伊藤 企業が持っている小さなホールも音楽には使いにくいですよ。

延原 350~400ぐらいのキャパのホールが神戸にも欲しい

—— 今度の新市庁舎にはぜひ作つて欲しいですね。

延原 まあ、神戸は商売上手だから、ホールのような採算の合わないものは作らないかな(笑)。

伊藤 イメージアップにはなりますよ。

いけないというのも事実です。使いわけをしてね。もちろん、最低一つは神戸にホールを作るというのが前提ですけどね。

伊藤 音楽専用の小ホールが欲しいというのは、もう10年も前から言っているんですが実現しないですね。ぜひ世界に誇れるものを作つて欲しい。地方都市に行くと、田んぼの中にけつこういいホールが建つていてびっくりすることがありますよ。

松本 神戸は黒字なんだから作るべきですよ。できないはずはない。文化ホールの側に作るのもいい。

延原 ホールだけというが無理ならビルの中でもいい場所はどこがいいですか。

延原 三宮中央区役所の辺とか、神戸駅の近くとか、交通の便利なところでもけつこうスペースはありますよ。

—— ところで、コンサートの開演時間は今ほとんどが6時でしょ。せめて7時にして、会社帰りのお客さんは早すぎるんじゃないですか。

延原 そうですね。これもスタッフの労働上の問題などがあるんですが、なんとか改善しないとね。

神戸は演奏活動の場としてはどうですか。

松本 大阪にはたくさん賞がありますが、神戸には市が主催している賞があまりない。あればムードが出てくるんですが。

延原 例えは賞を作るにしても、大阪が秋にやるんだつたら神戸は春にやるとか、京阪神でバランスを考えてやるべきですね。そうすれば長続きしますよ。賞は長く続かなきや意味ないですからね。

松本 それから外人タレントが多すぎます。それで人が来ればいいが来ないでしょ。

伊藤 何といってもホールと、備え付けの楽器です。ガタガタだと外に向かってもかっこ悪いです。今度スタンウェイピアノの展示販売所が神戸にできて、貸し出しましてくますので利用したいですね。

中西 ジャズストリートのクラシック版というのほど

うですか。 松本 それは面白い。クラシックの食べ歩きですね。市民サイドでいろいろ企画したいですね。最後に今後の抱負や提案などありますか。

中西 以前から考へているんですが、神戸周辺に伝わる民話をもとにした歌を作りたい。そうすれば地元のPRにもなります。

伊藤 それはいいですね。歌は心を交流する一番身近な方法ですから。小さい頃覚えた歌はいつまでも忘れない。そういう歌ができれば、地元の人もふるさと神戸に対する愛着が増すと思いますね。

松本 オペラにしても本場の人にはかなわない、生き残る道は創作オペラしかない。神戸をテーマにした創作オペラを作りたいですね。

延原 神戸は外から見ると文化的な可能性が非常に高いわけです。市も商売がうまいしね。にもかかわらず、中の人間のアイデア不足なのか、伸びそうで伸びない。一つは、神戸の人って飽きっぽいんですね。だから外部からいろいろな音楽家を集めてきて、新しいものをどんどんぶつけていけば活性化すると思う。これが21世紀の神戸にとって最も必要なことですよ。

—— ニューオリエンタルホテルの劇場が完成すれば、また新しい音楽家が呼べるでしょうね。

井上 昨年、姫路の美術館でリサイタルをしたんですけど、向こうでは市が新聞に広告を出して人を集めているんです。神戸市もそうすればたくさん人が来ると思う。延原 演奏家がチラシを配つてたんじやどうしようもない(笑)。

—— それはいいアイデアですね。新聞やTV、ラジオなどの情報センターが音楽ホールと結びついてPRをすれば、神戸の音楽シーンも大きく飛躍するでしょうね。今後もそういうアイデアをどんどん提案していきたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

(プラン・ドウ・プランにて)

田崎真珠株

取締役社長 田崎 梅作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

株オールスタイル総本社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区港島中町 6 丁目 5-1
TEL (078) 302-3311



★日本タウン誌協会設立

日本列島を縦断 さらに広がる輪

二月十八日(木)、東京・銀座東武ホテルで「日本タウン誌協会」の設立総会が開かれた。

「地方の時代」が喧伝されてから久しくなるが、地域文化の担い手としてタウン誌のもつ役割が最近とてみに高く評価されて来ている。今回の日本タウン誌協会の設立は、いわば「一国一城」意識の強いタウン誌が、個々の殻を破り、時代の急激な変化、時代の多様な要請に応えるべく、大同団結をしたものである。

それは、(一)全国の主要都市を結ぶタウン誌のネットワークづくり、(二)情報交換、研究交流など研修体制の確立、(三)「街づくり」「街おこし」などへの積極的提案、(四)タウン誌の体質の強化と地位の確立などをめざしている。

無論、かような組織が降って湧いて結成されたわけではない。過去十年間、年一回、各地で「全国タウン誌会議」が開催されて來たが(第四回を小誌が神戸で主催)、その中で全国ネットワークの必要性が提起され、満を持しての発足となつた次第である。

設立総会には、北は旭川(北海道)から南は那覇(沖縄)までの69タウン誌が参加、文字通りに日本列島を縦断する一大ネットワークが誕生した。

当日の総会では、役員も決定。会長・角田吉博(月刊武州路・浦和市)、副会長・庄山章信(月刊フェニックス・福井市)、理事長・小泉康夫(月刊神戸っ子)、事務局長・清水信夫(マイ奈良・奈良市)各氏が選出され、事務局を小誌編集室におくこととなつた。

総会の後の記者会見では、今回の日本タウン誌協会結成への期待感から、在京の新聞社など多数の取材陣の参



タウン誌のメンバーが全員集合! 真中の列の左から2人目から右へ庄山副会長、角田会長、小泉理事長。

加を見、翌日の新聞報道とともに、東京はじめ様々なところから小誌へ問い合わせが殺到した。

日本タウン誌協会では、当面、次の諸項目を事業計画にあげている。

A、日本タウン誌協会の開催。

B、機関誌「タウン誌ネットワーク」(仮称)の発行。年四回機関誌を発行。会員の提案発表や意見交換の場



設立総会での模様

とする。内外から地域メディアに関する最新情報を記事取材する。

C、人材育成のためのセミナーなどの開催。

会員各社のため、経営・製作技術および関連事業などの研鑽の場としてセミナーなどを開催する。

D、会員の共同取材による全国出版版。

E、産地直送や観光情報など地域で発生する情報の全国ネット化。

F、公共体、企業への情報提供などの受け皿とする。

G、地域文化振興のための提言・協力。

H、「街おこし」人材バンクの設置など。
今、タウン誌の新しい時代が始った。

★日本タウン誌協会会員★

郷土誌 あさひかわ(旭川)
ふるさと十勝(帯広)
会津嶺(あいづね)(会津若松)
月刊 街こおりやま(郡山)
月刊 ジョイフル(北茨城)
タウン誌 うつのみや(宇都宮)
みにむ(足利)
月刊 うずまっこ(栃木)
月刊 上州路(高崎)
月刊 武州路(浦和)
月刊 いちかわ(市川)
月刊 ばすけっと(市川)
月刊 my ふなばし(船橋)
月刊 江戸川春秋(松戸)
月刊 とも(度毛)(野田)
月刊 おとなりさん(東京)
月刊 たかしまだいら(東京)
月刊 日本橋(東京)
ハイ!石神井公園(東京)
月刊 光が丘(東京)
月刊 ぼんじゅうる(東京)
月刊 えくてびあん(立川)
週刊 きちじょうじ(武蔵野)
月刊 ちゅうふ・とーく(調布)
天竺南蛮情報(調布)
月刊 タウン情報
My City ながおか(長岡)
月刊 PHOENIX(福井)
my 信州(長野)
月刊 タウン情報 いいだ(飯田)
季刊 わがまち(富士宮)
タウン誌 知多つ子(半田)
しんぶる(伊勢)
うーばん(大津)
御堂筋(大阪)
月刊 TOWN はりま(姫路)
モアあまがさき(尼崎)
明石新聞(明石)
上郡(かみごおり)民報(赤穂)
マイ奈良(奈良)
MONTHLY アガサス(和歌山)
隔月刊 因島ジャーナル(因島)
月刊 ウェーブ(下関)
月刊 NICE TOWN(高松)
アットホームニュース
幸手(幸手)
タウンライフにいはま(新居浜)
新郷土(佐賀)
月刊 L.L(宮崎)
郷土雑誌 かごしま(鹿児島)
月刊 タウン情報かごしま(鹿児島)
週刊 レキオ(那覇)
月刊 神戸っ子(神戸)
月刊 グットラック
TOYAMA(富山)
ヨコハマコレクション(横浜)
KANDA ルネッサンス(東京)
新宿 Magazine(東京)
あおもり草紙(青森)
月刊 Plenty(町田)
アイ・ラブかながわ(横浜)
ぎんざ NOW(東京)
せんとらる江戸川(東京)
シティ情報 月刊くるめ(久留米)
月刊 りんかい春秋(苦小牧)
月刊 SENBA(大阪)
季刊 & α(新潟)
Bird's Eye(秋田)
月刊 みと(水戸)
月刊 おあしじ(金沢)
鳥栖新聞(鳥栖)